

## 5 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

### (1) 地域プラットフォームの環境整備支援等業務

#### ア プラットフォーム団体への伴走支援等

- 環境整備のプロセスに関わる伴走支援（月1回以上の採択団体との接触）として、次の通り、各団体と打合せをはじめ、各種支援などを行った。

	なお SDGs スイッチ【継続】 PF 七尾	ローカル SD クリエーション【新規】 PF 丹南	荒山林業【新規】 PF 大町
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■4/20 打合せを実施(面談)</li> <li>● 今年度のスケジュール等について確認・共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■4/21 打合せ・ヒアリングを実施(面談)</li> <li>● PF 事業で目指すこと、今年度の取組などを確認・共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■4/19 打合せ・ヒアリングを実施(面談)</li> <li>● PF 事業で目指すこと、今年度の取組などを確認・共有。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 採択団体名を「のと共栄信用金庫」から新設コンパなお SDGs スイッチ」に変更する相談連絡に対し、手続等を確認、連絡。(電話・メール等)</li> <li>● 電話・メールで6/1開催連絡会議の出欠について連絡・確認等。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■打合せを実施(面談)</li> <li>● 今年度のスケジュールの確認とSHミーティングの開催時期・方法について確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■5/13 打合せを実施(電話)</li> <li>● キックオフ発表資料の作成方法等について協議。</li> <li>■5/27 打合せを実施(面談)</li> <li>● キックオフ発表資料で今後の展開等について協議・確認。</li> </ul>
<b>■ 6/7-8 キックオフミーティング</b>			
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>■6/1 第1回なお SDGs 連絡会議の実施</li> <li>● EPO も出席し、9 月中旬開催の第2回連絡会議にて SHM 開催を協議。</li> <li>● 連絡会議の様子を EPO の SNS に投稿。</li> <li>● 6/15 にキックオフで連絡を取りたい他団体からの依頼について連絡。及び現状の取組と、金融庁・環境省との打合せ、提示資料について共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 6/7 竹魚礁づくりイベントについての連絡調整。</li> <li>■6/18 竹魚礁づくりイベント</li> <li>● EPO も参加・取材。</li> <li>● イベント 6/18 の様子の記事を EPO の SNS に投稿。</li> <li>● 6/21 打合せ延期の連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■6/16 に PF 中間共有会の日程について連絡・確認</li> <li>● PF 中間共有会の大町市開催の可能性についても協議。</li> <li>● 6月中旬に、市長と若者の意見交換会に参加予定との報告あり。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 12 月に名古屋への来訪、イベント登壇に伴う EPO 立ち寄りの連絡あり。</li> <li>● 日本青年会議所主催「第 6 回価値デザインコンテスト～質的価値社会創出プロジェクト～」の SDGs 受賞のお祝いと広報連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 7/7 予算計画書確認の連絡。</li> <li>■7/28 打合せ(面談)</li> <li>● 6/18 イベント結果と協力団体の反応、次回 9 月イベントについて確認。</li> <li>● SHM の開催方法・タイミング等について協議。</li> <li>● 活動主体の拡がり: 活動者との情報交換について確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■7/20 打合せを実施(面談)</li> <li>● SHへの声掛け状況、SHM について確認。</li> <li>● PF 中間共有会の開催について協議。</li> <li>■7/28 電話打合せ</li> <li>● 「森と湖」をテーマにした SH 会合実施の報告。</li> <li>● メーリス登録について相談あり。</li> </ul>
8月	<p>※未来像づくり WS がコロナで中止(オンライン座学のみ)。 ⇒状況確認、SHMへの影響確認の電話連絡。問題なしとの回答。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■8/31 打合せ(面談)</li> <li>● 現状の取組状況の確認と、SHM の実施方法等について協議。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動主体に関わる情報交換の場の設営について連絡調整(活動者との情報交換)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中間共有会 11/18 の運営に関して電話・メールで連絡調整。</li> <li>● 事業費についての PF 側の問合せあり。</li> <li>■PF 小布施との連携・協力で勉強会等を実施</li> <li>● 勉強会参加者との SHM の企画についてメール相談あり。 ⇒9/7 実施の打診があったが、EPO 側に別件予定があり実施できず。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「能登 SDGs 市民大学」2期、「集まれ、いきもの調査隊！ノトの里山里海を調査せよ！」の開催についての案内メール・電話。 ⇒WEB、SNS で広報協力。</li> <li>■9/22 第2回なお SDGs 連絡会議にて SHM を併催。</li> <li>● EPO は SDGs 未来都市の概略説明と、岐阜市の事例動画を上映。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■9/12 活動者との情報交換</li> <li>● 丹南エリア周辺の地域づくり活動主体の情報をヒアリング。</li> <li>● 9/19 竹魚礁の観察シュノーケリングイベントの告知メールあり。 ⇒WEB、SNS で広報協力。</li> <li>■9/27 打合せ(面談)</li> <li>● エコツアー実施状況、開催予定の確認。</li> <li>● 中間共有会、SHM、PS 基盤強化会合への SH 参集の進め方について確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■9/7 中間共有会について打合せ</li> <li>● エクスカーション行程について協議。</li> <li>● 9/14 にエクスカーション行程の確定案のメール連絡あり。</li> </ul>

	なお SDGs スイッチ【継続】 PF 七尾	ローカル SD クリエーション【新規】 PF 丹南	荒山林業【新規】 PF 大町
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>未来ビジョン候補の投票プロジェクトをEPOのSNS等で広報協力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10/27 打合せ</li> <li>SHへの呼びかけ状況について確認、SHミーティングの企画等について協議。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10/4 PF 小布施と別業務打合せ ⇒大学の空家活用の研究フィールドが大町市となること。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会の取組発表資料の提出についての電話、メールで連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会の取組発表資料の提出についての電話、メールで連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会の実施に向けたメール・電話連絡でやり取り</li> <li>自治体出席についての相談に対し、中間共有会当日、市へ中部事務所とEPOが訪問する調整。</li> <li>当日、オンライン登壇の連絡あり。</li> <li>中間共有会の開催後、エクスカージョン実施協力について御礼メールを送信。</li> </ul>
<p><b>11/18-19 中間共有会</b></p>			
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/13 東京海上主催・SDGs フェスティバル in 名古屋丸の内に登壇・ブース出展。 ⇒EPO 聴講、ブース訪問。</li> <li>12/12にEPO立ち寄り／打合せ</li> <li>PF 丹南のPS 基盤強化会合で商工会議所等への呼びかけで協力依頼。</li> <li>12/26SDGs 表彰受賞のお知らせをいただく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12/12EPOにて打合せ実施</li> <li>SHミーティングについて協議。 ⇒1/18開催で企画決定。</li> <li>EPO 主催 PS 基盤強化会合について協議。 ⇒2/7にPS 基盤強化の丹南会合を企画。会場(SHの農家レストラン)と電話打合せ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本省主催「ローカル SDGs 構築セミナー」への参加呼びかけをメール。</li> <li>成果報告会への参加について確認。</li> <li>12/21 電話があり、事業化支援についての全国事務局からの連絡対応等について確認。</li> <li>12/23 団体から活動紹介用資料が届く。 ⇒大町市企画財政課との別件業務打合せ(12/27)でPF 事業とPF 大町の取組を紹介。 12/27 市との打合せ後、団体側とも打合せを実施(取組状況の確認等)</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>2/7実施PS 基盤強化:丹南会合への協力についてメール打合せを行い、丹南エリアに関わりのあるSHへの開催概要送付を依頼。</li> <li>今後の展開についてオンライン打合せの日程調整の連絡。</li> <li>1/25にJC主催【AWARDS JAPAN 2022】グランプリ受賞のメール連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SHミーティングの開催案内をメール確認。PF 事業メールでも送付するよう依頼。</li> <li>2/7実施PS 基盤強化:丹南会合の開催概要を活動団体と登壇SHに送付。</li> <li>1/18SHミーティング実施 ⇒EPOは出席と開催支援。</li> <li>翌日1/19にSHミーティングの御礼と抽出意見の活用法についてメール連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後の展開についてオンライン打合せの日程調整をメール連絡。</li> </ul>
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>2/8オンライン打合せ</li> <li>今後の展開、事業化支援応募を確認。</li> <li>主な事業のタネ、事業運営組織体制についてヒアリング。</li> <li>2/17内閣府の地方創生SDGs 金融表彰の受賞についてSNS投稿記事をシェア、お祝いメール等をやり取り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2/8オンライン打合せ</li> <li>今後の展開について確認。</li> <li>活動者からの紹介SHと白山さんち協働による山カフェを試行予定、沖縄への視察予定などヒアリング。</li> <li>2/20電話で最終提出物についての確認の電話あり。 ⇒事業化支援希望調書の不明な点について回答。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>別業務の2/4開催SDGs 学生サミットでの大町市発表について問合せの電話。</li> <li>2/6オンライン打合せ</li> <li>ディレクターほか新規SH計3名も交え、次年度イベント計画等についてヒアリング。</li> <li>2/22電話・メールで成果共有会の提出資料について問合せ。 ⇒不明点について回答。事業のタネシートを確認して追加の記入を提案。</li> </ul>
3月	<p><b>3/8-9 成果報告会</b></p>		

## イ 新規採択団体を対象にしたヒアリング

### ①実施概要

- 今年度の中中部エリアの新規採択2団体を対象に、事業着手時ヒアリングを実施した。

活動団体名	実施日／場所	ヒアリング項目
ローカルSDクリエーション (PF丹南) 【新規】(福井県丹南地区)	2022年4月21日／ しらやまいこい館 (福井県越前市)	Q.1:本事業を通じて、形成するプラットフォームのイメージとは？ Q.2:地域循環共生圏を実現した地域の姿・イメージとは？ Q.3:今年度の取り掛かり、何をどこまでやるか？
荒山林業(PF大町) 【新規】(長野県大町市)	2022年4月19日／ 荒山林業(長野県 大町市)	Q.4:事業を進める上での資源や強みとは？ Q.5:事業を進める上での課題とその解決のための方策などは？ Q.6:事業を進めるにあたっての協力者・ステークホルダーは？

## ②調査対象（ヒアリング出席者・同席者）

ローカルSDクリエイション (PF丹南)	合同会社 SD ローカルクリエイション社長 三田村佳政氏 水辺と生き物を守る農家と市民の会会長 長谷川氏 さかのくち活性化協議会 野村氏
荒山林業 (PF大町)	荒山林業 荒山あゆみ氏、荒山雄大氏 株式会社山川草木 香山由人氏 北アルプス地域振興局林務課 池上路浩氏

## ③ヒアリング結果（ヒアリングシートの作成）

- ヒアリング実施後、所定のヒアリングシート（GEOC 提示のフォーマット）に聴取内容を整理、記入し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOC に提出した。

## ウ 採択団体の支援計画の作成・提出

- ヒアリングシートの作成にあわせて、各プラットフォーム団体（継続団体も含む）の支援計画シート「環境整備フォローシート」（いずれも GEOC 提示のフォーマット）を作成し、中部地方環境事務所と共有のうえ、GEOC に提出した。

### 【作成した支援計画シート（環境整備フォローシート）の一部】PF 七尾

R4 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏プラットフォーム構築事業 環境整備活動団体

**環境整備支援：年間計画**

担当EPO	EPO中部	団体概要	のち共同活用金庫による「市民と共に歩む七尾圏ローカルSDGsプロジェクト」														
記入者	東田夏子																
記入日	4月26日																

●活動団体のイベントスケジュール 予定を灰色で記入してください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月
全体行事			キックオフ									成果共有会
1) 中間共有会												
2) 打合せ：毎月1回程度予定	打合せ		各自治体SDGsステーション連絡会へ打合せ									
3) SHミーティング			時期・企画協議予定									
4)												

意見交換会、WSなどの予定列を適宜追加してください。

### 【作成した支援計画シート（環境整備フォローシート）の一部】PF 丹南

R4 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏プラットフォーム構築事業 環境整備活動団体

**環境整備支援：年間計画**

担当EPO	EPO中部	団体概要	福井県越前市を中心とする丹南エリアにおいて、採択団体「合同会社SDクリエイション」が中心となって、重山製錬副産物を利用した海洋資源保全に関するコンソーシアムの構築、生き物田んぼファンクラブの連携構築に取り組み。														
記入者	東田夏子																
記入日	5/13修正																

●活動団体のイベントスケジュール 予定を灰色で記入してください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月
全体行事			キックオフ				中間報告会					成果共有会
1) イベントとその収益性の検証			エコツアー(イベント①)	エコツアー(イベント②)	エコツアー(イベント③)							検証結果の共有
2) SHミーティング			1/29/2024確認	1/イベント後打合せ								SHミーティング(農家集)
3) 事務局打合せ	ヒアリング	打合せ	打合せ	打合せ								
4) EPO主催勉強会												

意見交換会、WSなどの予定列を適宜追加してください。

### 【作成した支援計画シート（環境整備フォローシート）の一部】PF 大町

R4 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏プラットフォーム構築事業 環境整備活動団体

**環境整備支援：年間計画**

担当EPO	EPO中部	団体概要	採択名「荒山林業」（採択団体「仮」としておきたいとのこと。） 長野県大町市の林業家を中心としたPFで、林業及び林業の現場となっている重山を活用した地域活性化とその経済圏づくりを目指している。														
記入者	東田夏子																
記入日	4月26日																

●活動団体のイベントスケジュール 予定を灰色で記入してください。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R5 1月	2月	3月
全体行事			キックオフ									成果共有会
1) 中間共有会												
2) 打合せ：毎月1回程度予定	ヒアリング		打合せ：スケジュール/取組の方向性等の確認									
3) SHミーティング			時期・企画協議予定									
4) EPO主催勉強会												

意見交換会、WSなどの予定列を適宜追加してください。

## (2) 中間共有会の開催

### ①日時

- 中間共有会：2022年11月18日（金）13：30～16：30
- エクスカーション（PF大町の活動現場視察）：2022年11月19日（土）8：20～14：30

### ②会場等

- 中間共有会の会場：長野県大町合同庁舎5階講堂
- エクスカーションの視察地：荒山林業地、木崎湖 POWWOW キャンプ場、工房ぐるり

### ③出席者

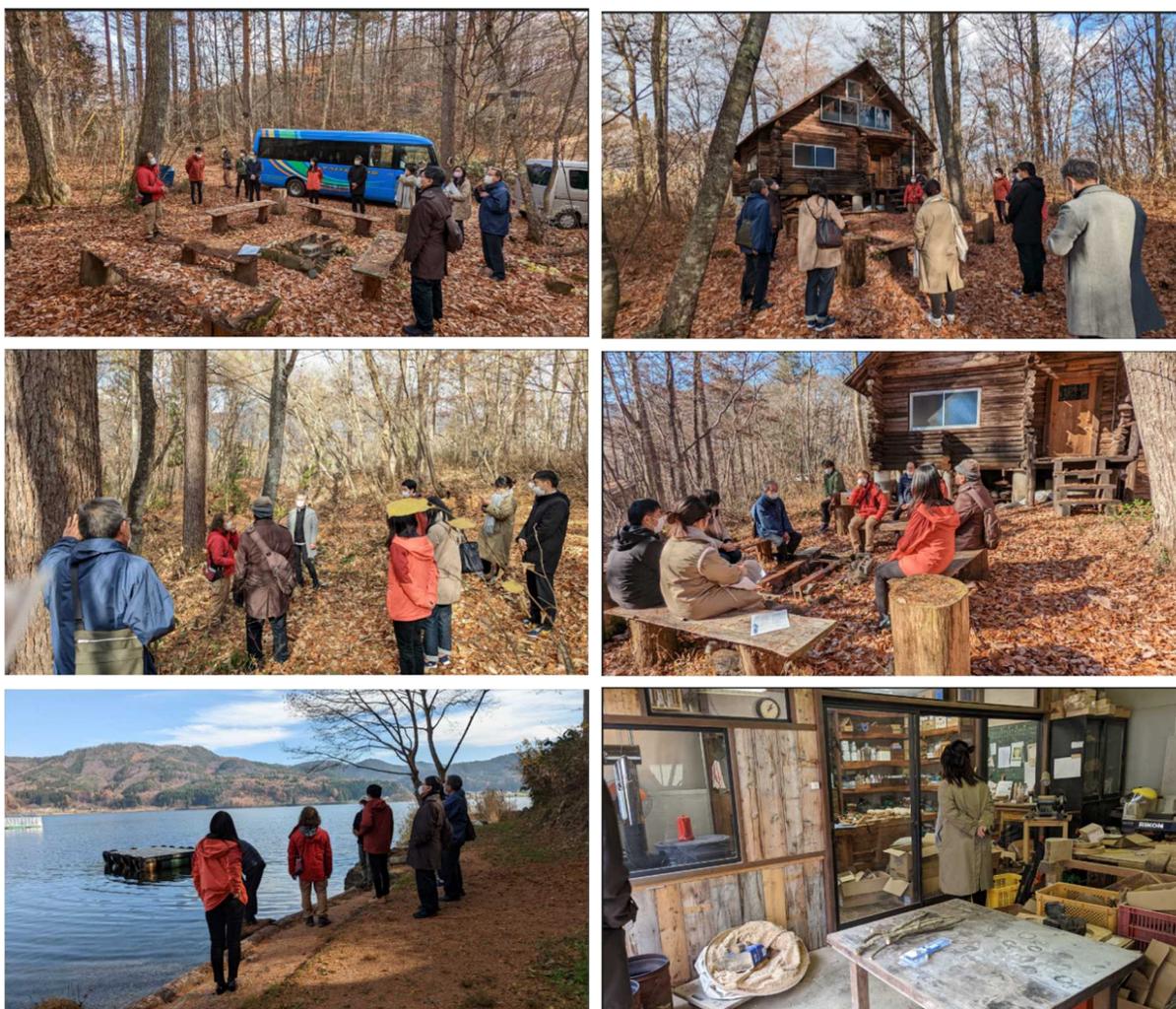
出席者(所属先)	1日目共有会	2日目視察	備考
なおSDGsスイッチ	参加	-	PF七尾
合同会社ローカルSDクリエイション	参加	参加	PF丹南
荒山林業	Zoom参加	-	PF大町
荒山林業	Zoom参加	-	〃
荒山林業	参加	参加	〃
荒山林業	参加	-	〃
大町市農林水産課森林振興係	参加	-	〃
長野県北アルプス地域振興局	参加	参加	〃
長野県北アルプス地域振興局	参加	-	〃
長野県北アルプス地域振興局	参加	-	〃
長野県北アルプス地域振興局	参加	-	〃
信州大学キャリア教育・サポートセンター	参加	参加	卒業団体PF小布施
一般財団法人CSOネットワーク	参加	参加	アドバイザー委員
岐阜大学客員教授 加藤義人氏	参加	-	ESD/EPO(中部)運営委員
NPOまちづくりスポット専務理事 田辺友也氏	参加	-	ESD/EPO(中部)運営委員
環境省大臣官房地域政策課	参加	-	
環境省大臣官房地域政策課	参加	参加	
環境省中部地方環境事務所	参加	参加	
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)	参加	-	
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)	参加	参加	
地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)	参加	参加	
EPO中部	参加	参加	
EPO中部	参加	参加	
EPO中部	参加	参加	
参加者数・計	24人	12人	



#### ④プログラム

1. あいさつ
2. 活動団体の取組発表  
【PF 七尾】 ななお SDGs スイッチ  
【PF 丹南】 合同会社ローカルSD クリエーション  
【PF 大町】 荒山林業
3. 先輩団体による取組紹介と活動団体へのエール  
【PF 小布施】 スマート・テロワール協会 勝亦 達夫 氏（信州大学キャリア教育サポートセンター講師）
4. 休憩・交流 フリータイム
5. ディスカッション
6. 本日の講評・感想  
一般財団法人CSO ネットワーク事務局長 長谷川 雅子 氏  
岐阜大学工学部客員教授 加藤 義人 氏  
NPO 法人まちづくりスポット専務理事 田辺 友也 氏
7. 事務局からの連絡
8. 閉会

#### ⑤11月19日実施・PF 大町（荒山林業）のガイドによる視察の様子



### (3) 活動団体主催ステークホルダーミーティングの実施支援

- 中部の3採択団体のうち、PF 七尾（ななお SDGs スイッチ）のステークホルダーミーティングが9月22日に実施され、七尾側の要望に基づき、EPO 中部はSDGs 未来都市についての簡易な説明と、岐阜市（SDGs 未来都市及びモデル事業に選定）による2021年度主催催事での取組発表動画を上映した。
- PF 大町は12月に合宿形式で行った地域資源抽出ワーキングの会合を開催し、これをステークホルダーミーティングとして位置づけた。
- PF 丹南はステークホルダーミーティングを1月18日に実施し、EPO 中部はワーキング用のツール、シート等の準備支援を行った。

活動団体名	実施日/場所・方法	EPOが実施した支援等
ななおSDGsスイッチ (PF七尾)	2022年9月22日/ 七尾商工会議所 及びオンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● SDGs未来都市についての簡易な説明(資料作成・配布)</li> <li>● 岐阜市 (SDGs未来都市及びモデル事業に選定)による2021年度主催催事での取組発表動画の上映</li> </ul>
荒山林業(PF大町)	2022年12月/ 白馬にて合宿形式で 実施	(地域視察を行いつつ、地域資源の抽出ワーキングを実施) ※ 実施後に団体側が本会合をステークホルダーミーティングに位置づけた。
ローカルSDクリエーション(PF丹南)	2023年1月18日/ 赤坂みらい塾	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ディスカッション用の模造紙、カラーペン、付箋等のワークショップツールの準備</li> <li>● オブザーバー参加、ファシリテーション補助</li> </ul>

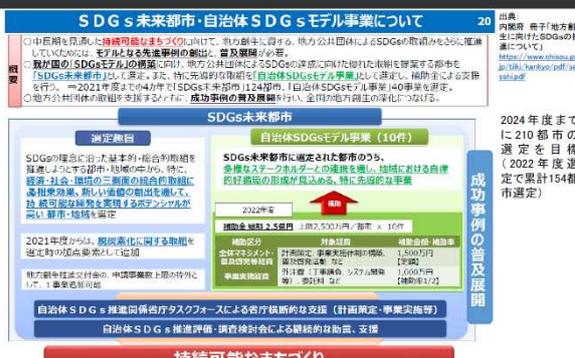
#### 【PF 七尾のミーティング参加者に配布した EPO 資料】

中部のSDGs未来都市についての資料  
及び、岐阜県岐阜市(モデル事業にも選定)の取組【動画】

2022年9月22日・PF事業 S H ミーティング@ななおSDGsスイッチ

環境省EPO中部 富田

改めて「SDGs未来都市」とは (内閣府の資料より)



2024年度までに210都市の選定を目標(2022年度選定で累計154都市選定)

成功事例の普及展開

持続可能なまちづくり

「自治体SDGsモデル事業」とは (内閣府の資料より)



SDGsのゴールについては、発表資料の巻頭をご覧ください

中部エリアのSDGs未来都市

「SDGs未来都市」に選定された自治体の数

県	選定年度					計
	2018	2019	2020	2021	2022	
富山県	1	2				3
石川県	2	1	3	1	1	7
福井県		1		1		2
長野県	1	1	1	2	2	6
愛知県	1	3	1	2	1	8
岐阜県			1	3	1	5
三重県	1		2			3
総計	6	7	8	8	5	34

「自治体SDGsモデル事業」に選定された自治体の数

県	選定年度					計
	2018	2019	2020	2021	2022	
富山県	1	1				2
石川県			1	1		2
福井県		1				1
長野県						
愛知県						
岐阜県				2	1	3
三重県			1			1
総計	1	2	2	2	1	8

内閣府のウェブサイト「地方創生」にて、これまでのSDGs未来都市(及びモデル事業)の選定結果とその「総評」が公開されています  
<https://www.chinpo.go.jp/iriki/sankyo/index.html>

**中部エリアのSDGs未来都市**

SDGs未来都市の自治体の窓口担当部署 ※2022年6月時点

担当部署の名称から	選定された年度				計
	2018	2019	2020	2021	
企画・総務・総合政策等の部署	3	6	3	4	19
「SDGs」未来が入った部課	2		2	3	2
「SDGs」と付く係・担当を設置	1		2	1	4
特有プロジェクトの担当部署		1	1		2
<b>総計</b>	<b>6</b>	<b>7</b>	<b>8</b>	<b>8</b>	<b>5</b>

既存の部署が担当  
新しく立ち上げた部署？  
ヨコの連携を重視か  
加賀市のスマートシティ課、南砺市のエコビレッジ推進課

「自治体SDGsモデル事業」の自治体と窓口部署

選定年度	県	団体名	担当課	2022年6月時点
2022	岐阜県	恵那市	企画課 SDGs推進室	
2021	岐阜県	岐阜市	企画部 未来創造研究室	
2021	岐阜県	美濃加茂市	SDGs推進室(商工観光課)	
2020	石川県	金沢市	都市政策局 企画調整課	
2020	三重県	いなべ市	企画部 政策課	
2019	富山県	南砺市	総合政策部 エコビレッジ推進課	
2019	福井県	鯖江市	総合政策課	
2018	富山県	富山市	環境部 環境政策課 環境未来都市推進係(富山市SDGs未来都市推進本部事務局)	

**EPO中部主催「SDGs学生サミット2020」に登壇したSDGs未来都市**

2021年7月14日(月)  
13:00~16:30

第1部SDGs未来都市の取組  
～自治体のSDGsの施策や取組について～

【YouTube録画】  
<https://youtu.be/sHjK0MydA>

OSDGs未来都市などへの取り組み  
尾上圭氏(名古屋環境局環境企画部環境企画課)

〇持続可能な付加価値創造都市を目指して  
～SDGs未来都市とやまの取組～  
東福光晴氏(富山市環境部環境政策課)  
<https://www.youtube.com/watch?v=HjK0MydA&t=1638s>

〇世界の交流拠点都市金沢の実現  
～市民と来街者が「しあわせ」を共創するまち～  
東正彰氏(金沢市都市政策局企画調整課)

**EPO中部主催「SDGs学生サミット2021」に登壇したSDGs未来都市**

2022年2月19日(土) 午前  
10:00～16:30

第2部 SDGs未来都市の取組  
～自治体のSDGsの施策や取組について～

【YouTube録画】  
<https://youtu.be/nrH73EwWnEeC>

● シビックプライドとWell-beingに満ちたSDGs未来都市・岐阜市 【モデル事業に選定】  
岐阜県岐阜市 企画部未来創造研究室  
杉本昭一氏・玉木宏明氏  
<https://www.youtube.com/watch?v=nrH73EwWnEeC&t=1000s>

● SDGs未来都市 石川県珠洲市のSDGs学習  
石川県珠洲市 能登SDGsラボ  
高真由美氏

● SDGs未来都市とよとの取組  
パートナーシップで実現するミライのフーズ  
愛知県豊田市 未来都市推進課  
前田有紀氏・松井大河氏

**2022年度「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」の総評より**

- 2022年度に多かった提案
  - ・ (L37～) 地域を担う「人」に着目した取組や、Well-beingなどの未来志向のもの。
- 特徴的とされた提案
  - ・ (L45～) 有効なデジタル技術や先端技術の活用、自律的好循環の形成に向けて企業や金融機関、住民等の多様なステークホルダーとの連携を図り、地域経済活性化につながる提案など。
- 指摘事項として
  - ・ (L48～) カーボンニュートラルの実現に向けた取組(：加点要素)は環境だけでなく、経済、社会と三側面のバランスに考慮した提案であることが重要。
  - ・ (L65～) 「自治体SDGsモデル事業」は具体的な成果創出を期待、SDGs達成に向けた進捗の把握が可能な重要業績評価指標(KPI)の設定が重要。
  - ・ (L89～) 「自治体SDGsモデル事業」と全体計画は別物ではなく、全体計画推進の原動力が「自治体SDGsモデル事業」であると意識することが重要。
  - ・ (L77～) 多様なステークホルダーとの連携で、地域商社や地域金融機関などの具体的な民間企業を牽引している提案が実現可能性の高い提案となっている傾向があり、具体的な連携体制の記載が求められる。
  - ・ (L84～) 全体的にバランスの良い優等生の提案が多く、大胆かつ果敢な挑戦的取組が少なく、斬新さやインパクトに欠ける印象を否めない。

#### (4) 環境省・GEOC が主催する関連会議等への参加

- 環境省、GEOC が主催する地域循環共生圏づくりプラットフォーム構築事業関連の会議・会合等について、下記の会合等に出席した。
- キックオフミーティング及び成果報告会では活動団体による資料準備での作成内容の解説、作成後の確認等の支援を実施したほか、当日の意見交換/ポスターセッションでは、ファシリテーターとしてディスカッションの進行等を行った
- 

区分	開催日	会場/開催方法	実施内容等
キックオフミーティング	6月7日～8日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度選定団体(継続団体)の発表</li> <li>● 話を聞きに行く！タイム(ブレイクアウトルーム) など</li> </ul>
作業部会	第1回 8月18日	会場:GEOC	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【導入】本日の目的、事業化支援チームによる指標検討と KPI ツリーの共有</li> <li>● 【事前準備の共有】地域プラットフォームに起きた最も大きな変化とその要因と思われる出来事について</li> <li>● グループワーク</li> </ul>
	第2回 1月13日	会場:東京	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【意見交換①】環境整備の過程で得られた知見を共有する</li> <li>● 【意見交換②】本事業における「事業化支援」を分解する</li> </ul>
共有会	5月17日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業概要と R4 年度年間予定の共有</li> <li>● 新規ヒアリング結果等の共有</li> <li>● キックオフ企画の共有・依頼</li> <li>● 意見交換</li> </ul>
PF 事業形成会議	12月13日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【議題1】中間共有会の振り返り</li> <li>● 【議題2】R5 年度事業内容について</li> <li>● 【議題3】R4 年度末の予定について</li> </ul>
成果共有会及びネットワークングイベント	3月8日～9日	会場:東京	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成果発表(継続・新規各団体ごとに実施)</li> <li>● ポスターセッション(継続・新規各団体ごとに実施)</li> <li>● ネットワーキング(情報交換会)</li> </ul>

区分	開催日	会場/開催方法	実施内容等
PF 事業 アドバイザー 委員会	第1回 8月23日	オンライン ※傍聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>【議題1】今年度の事業計画について</li> <li>【議題2】動的な地域プラットフォームの姿とその支援のあり方とは</li> <li>意見交換</li> </ul>
PFのあり方に関する検討 ワーキング	第1回 9月22日	オンライン ※傍聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>論点1: 全国 PF のメインターゲットは、地域コーディネーターに絞ってよいか</li> <li>論点2: 全国 PF の KPI の設定の考え方は妥当か</li> <li>論点3: 全国 PF の認知度をどう上げるか</li> </ul>
	第2回 2月10日	オンライン ※傍聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>議題1: 次年度に向けた全国プラットフォームの改善について</li> <li>議題2: 全国プラットフォームが行う広報について</li> </ul>
プラットフォーム構築に向けた有識者会議	第1回 12月1日	オンライン ※傍聴	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状の共生圏についての考え方の共有</li> <li>事業の進捗状況について</li> <li>次年度の採択団体(新規)の選定の流れについて</li> </ul>

## (5) 事業化支援団体の活動の情報共有

- 今年度の中部エリアでは、事業化支援に採択された団体は「なし」となっているが、上記の関連会議に参加・傍聴し、事業化支援団体の活動内容、及び全国事務局等による支援内容・方法等についての情報収集を行った。

## (6) 卒業団体のフォローアップ調査

- 中部エリアの卒業団体の一つである「おわせ SEA モデル協議会」を対象にしたフォローアップ調査を12月23日に実施し、その内容を取りまとめたヒアリング結果シートを作成し、全国事務局へ提出した。

### 【提出したヒアリング結果シート】

【実施日時】2022年12月23日	【形態】対面	【記入者】EPO 中部・富田
【参加者】おわせ SEA モデル協議会 濱田氏（尾鷲市政策調整課）		
【団体の状況】		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中部電力(株)尾鷲三田火力発電所（2018年廃止）の跡地63万4千㎡の活用を目指し、事業展開を進める「おわせ SEA モデル」において、グランピング施設（2023年GW開業予定）等を展開する企業の進出が決定。</li> <li>● 現在、発電所跡地の企業誘致エリアでは、製材工場の立地計画も進められており、将来的にはバイオマス関連施設の開業なども見込まれるなど、同エリアを中心にして、尾鷲市における脱炭素社会の実現が大きく前進するものと期待されている。また、尾鷲市は、2030年度までにカーボンニュートラルを実現する全国のモデルとなる「脱炭素先行地域」への申請（第3回募集）も予定している。</li> </ul>		
【ヒアリング要旨】		
【取組当時のことについて】		
<p>■地域の将来像、地域資源の捉え方、地域課題の捉え方に対する考え方の変化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 共生圏 PF 事業開始前である2018年に協議会を発足し、その年度にランドデザインを策定し事業構想としての「夢」を描いていただけであり、それを実現するためには、単に中部電力尾鷲三田火力発電所跡地という広大な敷地があるということだけ、また、地主であり、事業パートナーである中部電力という巨大企業がいるだけでは、何も進まないことが分かった。</li> <li>● こうした、大規模なプロジェクト推進や企業誘致は初めての経験であったことから、広大な敷地に加え、本市の地域資源や周辺市町の地域資源を上手く組み合わせることで事業が成り立ち、そして、地域課題の解決に結びついていくこと、また、多くの企業と意見交換をすることで、企業側も事業のタネを探しており、いかに上手くマッチングし、それぞれの役割分担の中で、本市での事業展開に繋げていけるようになるかが重要であることを理解するきっかけになった。</li> </ul> <p>■成果物4点ツールの作成プロセスを振り返って印象に残っていることやその活用等について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● まずは、「環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくり 構想策定の手引き」が非常に分かりやすかったため、成果物4点を作成するだけでなく、振り返りで読み直すことで各プロジェクトの推進、特にステークホルダー、地域資源・課題、目標等の「見える化」や考え方の整理などに非常に役立つものであった。</li> <li>● 地域版マングラでは、地域課題、地域資源、取組、成果を紐づけることで体系的に「ありたい未来」を実現させるためのキーワードを整理することができた。</li> </ul>		

- ステークホルダーリストでは、単に個々の事業における企業との繋がりだけではなく、「おわせS E Aモデル構想」を実現させるために非常に多くのステークホルダーにより成り立っていることが明らかとなることで、事業者間連携などについても考えるきっかけとなった。
  - 目標シートや事業のタネシートでは、各プロジェクト（S・E・A）で作成したが、今振り返ればもっと個々の事業毎に対象事業、課題等を明確にした上で作り込みを行えば、事業実現により繋がったものと省みている。
  - 成果物の更新については、こうしたフォローアップ調査をきっかけとして取り組んでいきたい。
- 環境省・事業事務局からのサポートについて
- 随時の進捗管理と支援はもちろんのこと、2019年に有識者を招いて実施した「尾鷲分科会」、2020年の「SHミーティング」などの開催により、漠然としていた「おわせS E Aモデル構想」実現に向けたプロセスについてしっかり議論し、スタートアップとしてのプラットフォームづくりに大きく寄与する支援が得られた。その意味でも本事業は尾鷲市にとって大変意義のある事業である。
  - 今後は、まずはスタートアップとしてのプラットフォームづくり、特に地域循環共生圏づくりという点では、「持続可能性」が特に重要であり、持続可能な組織づくり、目標までのストーリーづくり、そして、絶えず活動を見直し、ブラッシュアップしていけるようなサポートを期待したい。
  - 個々の団体が地域活動を継続していくことは非常に難しいことであり、行政として継続して取組を注視し、その場面、場面での活動共有や支援をしていくことで、目指すべき絵姿が達成出来るのではないかと考えている。地域は刻々と変化していくものであり、長い目で地域の推移を見守っていくフォローアップを期待したい。

#### 【現在の状況について】

##### ■事業終了後のプラットフォームの運営状況について

- 2週間に1回、事務局定例会（市・中部電力・尾鷲商工会議所・三重県・三重大学）を開催するとともに、年1回以上の総会（予算・事業計画・決算）と必要に応じて臨時総会を開催。
- 協議会会員間の個別案件毎の打合せは随時実施。

##### ■計画・予定していた取組等で実施できなくなった活動について

- 個々の事業・取組については検討過程で実施できなくなったものもあるが、「おわせS E Aモデル構想」は「S（市民サービスと集客交流人口の向上）」、「E（エネルギー）」、「A（アクア・アグリ）」の相互連携により、「集客交流人口の拡大」と産業の振興による「雇用の創出」を図ることで、人々が集い活気あふれる「ふるさと尾鷲」を目指す構想であり、構想実現に向けて柔軟に対応していることから、実施予定事項の変化を特に問題と捉えていない。

##### ■新たに創出した事業等について

- 「おわせS E Aモデル構想」実現に向けて、新規事業に取り組む企業誘致を積極的に進めているところである。

#### 【今後の展開について】

##### ■これからPF事業に取り組む自治体/団体へのアドバイス等として

- 当然、事業規模が大きくなれば反対意見も出てくることから、粘り強く事業実現に取り組むことが重要となる。そのためには、まずは公共であれば首長の理解とリーダーシップが必要不可欠となる。その上で、議会、市民、事業者など理解者を増やしてこそ事業実現に繋がり、更にはサステイナブルな社会が達成することが出来ると考えている。
- 地域循環共生圏と一言で言うことは簡単であるが、一朝一夕には成し得ないため、地道に取組を進めていただく必要がある。また、地域間連携は継続して事業を推進していく上で地域相互の励みにもつながっており、地域間連携についても深めていってほしい。

##### ■今後進めたいテーマや環境省・事業事務局に対する要望等について

- 前回（2020年度）のSHミーティングに続き、今回、EPO中部がP S基盤強化会合を「おわせS E Aモデル」を対象に開催していただくことに非常に感謝している。
- 現在、「おわせS E Aモデル」事業では、紀伊半島の貯木量と重要港湾である尾鷲港の利活用にも目を向け、発電所跡地への大型製材工場誘致に向けた動きが活発化している。森林資源の循環利用を図るためにはその仕組みづくり、基盤づくりも重要であり、そうした取組も強化していかなければならないと考えている。

## (7) 森里川海生態系ネットワーク形成会合の開催

### ア OECMに関わる情報交換会

#### ①日時

- 2022年11月8日（火）13：30～16：30

#### ②開催方法・会場

- 開催方法：オンライン（zoom）

#### ③出席者

- 計55名
  - 中部7県及び静岡県の実務者の担当部署から39名
  - 環境省・事務局等関係機関16名

#### ④プログラム

1. ご挨拶
2. 環境省によるOECM概説と質疑応答
3. 中部の各県によるOECM等に関連する取組紹介
  - ①富山県、②石川県、③福井県、④長野県、⑤愛知県、⑥三重県
4. 1月25日開催フォーラムのご案内
5. 情報交換
6. 閉会



## イ OECM フォーラム

### ① イベント名

生物多様性主流化フォーラム in 中部  
「OECM を通じた企業の生物多様性保全活動」

### ② 日時

- 2023年1月25日（水）13:30～16:30

### ③ 開催方法

- 開催方法：オンライン（zoom、YouTube ライブ配信）

### ④ 主催

- 中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

### ⑤ 参加者

- 268名
  - zoom 参加 62（登壇者・事務局含む）
  - YouTube 視聴 206（ライブ配信ユニーク視聴者数）

### ⑥ プログラム

- 開会 ごあいさつ 環境省中部地方環境事務所
- 企業による生物多様性保全  
「OECM と自然共生サイト（仮称）について」  
環境省自然環境局自然環境計画課  
「世界目標と企業の生物多様性保全」  
国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアプログラムコーディネーター 渡辺 綱男 氏
- 自然共生サイト（仮称）試行認定の経験共有  
「森の維持管理と自然共生サイトへの取組」  
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社  
人事総務部門 総務・ファシリティ部 谷岡 修 氏  
「希少生物が生息・生育するシャトー・メルシャンの椀子ヴィンヤード（長野県上田市）」  
キリンホールディングス株式会社 CSV 戦略部 小此木 陽子 氏  
「柞の森（石川県珠洲市）における茶道用木炭生産を通じた里山の保全」  
株式会社ノトハソ 代表取締役 大野 長一郎 氏
- OECM に向けた多様な主体の連携  
「自然共生を目指した企業連携」  
環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）自然共生分科会事務局  
東邦ガス株式会社 CSR 環境部部长付 北本 都美 氏  
「市民・専門家と連携した調査・保全活動」  
なごや生物多様性保全活動協議会 会長 長谷川 泰洋 氏
- 質疑応答と登壇者によるトークセッション
- 閉会



生物多様性主流化フォーラム in 中部

# OECM を通じた 企業の生物多様性保全活動

2023年1月25日(水) 13:30～16:30

オンライン開催

参加  
無料

2022年12月に開催された生物多様性条約の締約国会議において、「2030年までに陸と海の30%以上を保全する」という世界目標(30 by 30目標)が決定されました。

この30 by 30目標の達成に向けた重要な手段がOECM(オーイーシーエム)です。OECMとは、法律などにより保護地域に指定されていない場所で、企業やNGO等の取組により生物多様性保全に貢献している場所(企業緑地、里地里山、都市緑地など)を指します。環境省では、OECMの推進に向けて、企業等の取組により生物多様性の保全が図られている場所を認定する仕組み(自然共生サイト(仮称))の構築を進めています。

このフォーラムでは、今後、中部地域でOECMを増やしていく方策を検討するため、OECMに取り組む意義やメリットなどについて深堀します。

プログラムは裏面をご覧ください

## 申込方法

- 参加申込フォーム <https://forms.gle/W5W5YCL7jJ7MZuB46>  
開催日の前日、申込登録したメールへZOOMの参加URLをお送りします。
- メールで申込の場合 宛先: info@epo-chubu.jp  
①氏名(ふりがな)、②連絡先(メールアドレスか電話番号)、③ご所属先を記載のうえ、件名「0125フォーラム」で1月20日までに送信願います。
- 定員 100名

30 by 30及びOECMにご関心のある方は、どなたでもお気軽にご参加いただけます。特に、生物多様性保全の取組を展開している、またはご関心のある企業、活動団体、自治体のみなさまのご参加をお待ちしております。

参考

環境省ウェブサイト「生物多様性のための30by30アライアンス」  
<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance>



主 催：環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO 中部)

..... プログラム .....

**1. 開 会**            ご挨拶：環境省中部地方環境事務所

**2. 企業による生物多様性保全**

- ① 「OECMと自然共生サイト（仮称）について」            環境省自然環境局自然環境計画課
- ② 「世界目標と企業の生物多様性保全」  
渡辺 綱男 氏（国連大学サステイナビリティ高等研究所シニアプログラムコーディネーター）

**3. 自然共生サイト（仮称）試行認定の経験共有**

- ① 「森の維持管理と自然共生サイトへの取組」  
谷岡 修 氏（ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社人事総務部門  
総務・ファシリティ部）
- ② 「希少生物が生息・生育するシャトー・メルシャンの<sup>まりこ</sup>椀子ヴィンヤード（長野県上田市）」  
小此木 陽子 氏（麒麟ホールディングス株式会社 CSV 戦略部）
- ③ 「<sup>ははそ</sup>柞の森（石川県珠洲市）における茶道用木炭生産を通じた里山の保全」  
大野 長一郎 氏（株式会社ノトハハソ代表取締役）

**4. OECM に向けた多様な主体の連携**

- ① 「自然共生を目指した企業連携」  
北本 都美 氏（環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）自然共生分科会事務局  
東邦ガス株式会社 CSR 環境部部长付）
- ② 「市民・専門家と連携した調査・保全活動」  
長谷川 泰洋 氏（なごや生物多様性保全活動協議会会長）

**5. 質疑応答と登壇者によるトークセッション**

**6. 閉 会**

.....

## (8) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

### ア 尾鷲会合

#### ① イベント名

- 令和4年度おわせ SEA モデル説明交流会  
「企業・金融機関等とのパートナーシップ  
による尾鷲市ローカルSDGs 実現に向けて」



#### ② 日時

- 2023年1月20日（金）13:30～16:30

#### ③ 会場

- 尾鷲市立中央公民館 3階・講堂（三重県尾鷲市中村町10-41）

#### ④ 主催等

- 主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

#### ⑤ 参加者

- 128名（登壇者・事務局含む、企業・機関数：63社）

#### ⑥ プログラム

- ごあいさつ  
尾鷲市長 加藤 千速  
環境省地域政策課地域循環共生圏推進室  
室長 佐々木 真二郎
- おわせSEAプロジェクトについて  
尾鷲市政策調整課 調整監 濱田 一多朗
- 協力機関からの応援メッセージ  
財務省 東海財務局 津財務事務所  
国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所
- プロジェクト・セッション
  - ① 尾鷲音色の森キャンプ場（仮）について  
(株) インフィニティ52 代表取締役 浜野 五十二 氏
  - ② 親子3世代が憩う総合公園整備について  
尾鷲市生涯学習課長 平山 始 氏
  - ③ 環境にやさしい陸上養殖について  
尾鷲商工会議所 プロジェクト室長 山本 浩之 氏
  - ④ 尾鷲市における製材工場立地の可能性について  
速水林業 代表 速水 亨 氏
  - ⑤ 質疑応答
- フリートークタイム
- 閉会



## ⑦開催案内

<p style="text-align: center;">令和4年度 おわせSEAモデル説明交流会 企業・金融機関等とのパートナーシップによる尾鷲市ローカルSDGs実現に向けて <b>開催案内</b></p>	<p><b>開催日時</b> 2023年1月20日(金) 13:30～16:30</p> <p><b>会場</b> 尾鷲市立中央公民館3階・講堂 住所 ...三重県尾鷲市中村町10-41 Googleマップ... <a href="https://maps.google.com/maps/place/尾鷲市立中央公民館">https://maps.google.com/maps/place/尾鷲市立中央公民館</a></p> <p><b>主な参加者</b> おわせSEAプロジェクトに関心のある/関心を持ってほしい企業・金融機関等 等</p> <p><b>主催</b> 環境省中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)</p>
--	--

<p style="text-align: center;">開催の趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ おわせSEAモデル協議会と企業・金融機関等との新たなパートナーシップを進める尾鷲市の未来像（ローカルSDGs）実現に向けて、新たなパートナーシップの構築と新たなプロジェクト創発のきっかけづくりを目指しています。</li> <li>■ 今回の説明交流会では、現在進行中の各プロジェクトを前提として、「S（サービシス・集客交流人口の向上）」につながる、例えば、アスレチック、スポーツ、宿泊、飲食・物販関連事業者、「E（エネルギー）」とその排熱活用等につながる陸上養殖、植物工場関連事業者、そして、SDGs/ESG投資に関心のある金融機関等の参加を促しています。</li> <li>■ また、尾鷲市では、2022年3月1日に「尾鷲市ゼロカーボンシティ宣言」を行い、現在、「脱炭素先行地域」への申請（第3回募集）準備を進めています。本会合ではこれらの関連動向とともに、環境省の地域循環共生圏づくり事業2019-2020年度に採択された「おわせSEAモデル」プロジェクトの最新情報をご紹介します。</li> </ul>	<p><b>プログラム 1/2</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ごあいさつ             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 尾鷲市長 加藤 千速</li> <li>■ 環境省地域政策課 地域循環共生圏推進室長 佐々木 真二郎</li> </ul> </li> <li>2. おわせSEAプロジェクトについて（15分）             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 尾鷲市政策調整課 調整監 濱田 一多朗</li> </ul> </li> <li>3. 協力機関からの応援メッセージ（10分）             <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 財務省 東海財務局 津財務事務所長 斎藤 馨 氏</li> <li>■ 国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所長 日置 幸司 氏</li> </ul> </li> </ol>
--	--

<p><b>プログラム 2/2</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. プロジェクト・セッション（各プロジェクト5分）             <ul style="list-style-type: none"> <li>○ セッションの進め方 説明：EPO中部</li> <li>① 尾鷲青色の森キャンプ場(仮)について                 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 株式会社インフィニティ52代表取締役 浜野 五十二 氏</li> </ul> </li> <li>② 親子3世代が憩う総合公園整備について                 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 尾鷲市生涯学習課長 平山 始 氏</li> </ul> </li> <li>③ 環境にやさしい陸上養殖について                 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 尾鷲商工会議所プロジェクト室長 山本 浩之 氏</li> </ul> </li> <li>④ 尾鷲市における製材工場立地の可能性について                 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 速水林業代表 速水 亨 氏</li> </ul> </li> <li>○ 質疑応答（60分） 進行：EPO中部</li> </ul> </li> <li>5. フリートークタイム（プロジェクト担当者との情報交換）</li> <li>6. 閉会（16：30予定）</li> </ol>	<p><b>参加申込フォーム</b> <a href="https://forms.gle/ZyRrGstvtA7vXen6A">https://forms.gle/ZyRrGstvtA7vXen6A</a></p> <p><b>問合せ・連絡先</b> 環境省中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部） TEL：052-218-8605 / E-mail：info@epo-chubu.jp <a href="https://www.epo-chubu.jp/">https://www.epo-chubu.jp/</a></p> <p>おわせSEAモデル協議会・事務局 尾鷲市政策調整課 TEL：0597-23-8134 / E-mail：sechosesl@city.owase.lg.jp <a href="https://www.owase-seamodel.jp">https://www.owase-seamodel.jp</a></p>
--	---

## イ 丹南会合

### ①会議名

- 里山里海ワイズユース×地域ビジネス 情報交換会

### ②日時

- 2023年2月7日(火) 13:30~16:00

### ③会場

- 会場：農家レストラン・白山さんち(越前市上杉本町11-7)

### ④出席者

- 計11名

ななおSDGsスイッチ【PF七尾】
合同会社ローカルSDクリエイション【PF丹南】
日本政策金融公庫武生支店
農家レストラン・白山さんち
越前市エコビレッジ交流センター
武生商工会議所 中小企業相談所
東京海上日動火災保険株式会社
環境省中部地方環境事務所
環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) 3名



### ⑤プログラム

- はじめに(基盤強化業務の趣旨) / 地域循環共生圏について  
環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐 原 慎一郎
- 環境省PF事業取組紹介: 産官学金コンソーシアム「ななおSDGsスイッチ」による創業支援等の取組  
ななおSDGsスイッチ 入口 翔氏(七尾商工会議所SDGsプロジェクト推進室室長 兼 のと共栄信用金庫ふるさと創生部次長)
- 環境省PF事業取組紹介: 丹南における里山整備副産物を利用した海洋資源保全  
合同会社ローカルSDクリエイション代表 三田村 佳政氏
- 地域ビジネス創出を目指した取組紹介: 日本政策金融公庫のソーシャルビジネス支援  
日本政策金融公庫武生支店融資課長 年岡 孝浩氏

- 地域の取組紹介：地域資源を活用した農家レストランやエコツアー  
農家レストラン・白山さんち 森 和恵 氏
- 意見交換・情報交換ディスカッション
- 閉会

## ウ 地域脱炭素セミナー（東海開催）

### ①イベント名

- 東海地域における地域脱炭素の実現に向けた金融機関向けセミナー

### ②日時

- 2023年3月6日（月）14：00～16：00

### ③開催方法

- 開催方法：オンライン（webex、YouTube ライブ配信）

### ④主催

- 主催：財務省東海財務局、経済産業省中部経済産業局、環境省中部地方環境事務所  
中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

### ⑤参加者

- 116名
  - webex 参加 61（登壇者・事務局含む）
  - YouTube 視聴 55（ライブ配信ユニーク視聴者数）



### ⑥プログラム

- ごあいさつ：財務省東海財務局
- 第1部：情報提供  
「カーボンニュートラルの推進に向けて」経済産業省中部経済産業局  
「脱炭素社会実現による地域づくり」環境省中部地方環境事務所

○ 第2部：パネルディスカッション

「脱炭素経営とこれからの地域づくりに向けて」

ファシリテーター：名古屋大学大学院環境学研究科 特任准教授 杉山 範子 氏

パネリスト：

十六銀行 執行役員 ソリューション営業部長 角 知篤 氏

株式会社マルワ 取締役 鳥原 由美 氏

協発工業株式会社 代表取締役 柿本 浩 氏

加山興業株式会社 経営企画室 室長 田島 真一 氏

株式会社艶金 代表取締役社長 墨 勇志 氏

⑦開催案内チラシ

地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

東海地域における **地域脱炭素** の実現に向けた

# 金融機関向けセミナー

オンライン開催・参加無料

2023年3月6日(月) 14:00 ▶ 16:00

東海地域には、製造業を中心に多くの中小企業が集積しています。  
この地域での社会変革と合わせた脱炭素社会構築に向けては、大企業がけん引する製造業をはじめ、  
多くの産業分野での脱炭素化を同時に進めることが重要です。  
当セミナーでは、地域で事業者との接点の多い地域金融機関を対象として、具体的な取組事例や情報の  
共有、意見交換を行います。

プログラム

**ご挨拶** 財務省東海財務局

**第1部** 情報提供  
「カーボンニュートラルの推進に向けて」 経済産業省中部経済産業局  
「脱炭素社会実現による地域づくり」 環境省中部地方環境事務所

**第2部** パネルディスカッション  
「脱炭素経営とこれからの地域づくりに向けて」  
ファシリテーター 名古屋大学大学院環境学研究科 特任准教授 杉山 範子 氏  
パネリスト 十六銀行 執行役員 ソリューション営業部長 角 知篤 氏  
株式会社マルワ 取締役 鳥原 由美 氏  
協発工業株式会社 代表取締役 柿本 浩 氏  
加山興業株式会社 代表取締役 加山 順一郎 氏  
株式会社艶金 代表取締役社長 墨 勇志 氏

Webex/YouTubeライブ配信 申込時にどちらかを選択してください。

● 参加申込フォーム <https://forms.gle/BYukUKLol23k6ybJ8>  
参加 URL または視聴 URL は、3月2日(木)までにお送りいたします。  
EPO 中部ウェブサイト (<https://www.epo-chubu.jp>) から  
申込できます。



EPO 中部 検索

● メールで参加申込の場合 [info@epo-chubu.jp](mailto:info@epo-chubu.jp)  
① 氏名 (ふりがな)、② 連絡先 (メールアドレス・電話番号)、  
③ ご所属先、④ 参加方法 (Webex / YouTube のどちらか)  
を記載し、件名を「0306 セミナー」として、2月28日(火)  
までに送信してください。

主催：財務省東海財務局・経済産業省中部経済産業局・環境省中部地方環境事務所・中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

## エ 地域脱炭素セミナー（信州開催）

### ①イベント名

- 信州における地域脱炭素の実現に向けた金融機関・事業者向けセミナー

### ②日時

- 2023年3月14日（火）14:00～16:00

### ③開催方法

- 開催方法：オンライン（webex、YouTube ライブ配信）

### ④主催

- 主催：経済産業省関東経済産業局、環境省中部地方環境事務所、  
財務省関東財務局長野財務事務所、中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

### ⑤参加者

- 84名
  - webex 参加 22（登壇者・事務局含む）
  - YouTube 視聴 62（ライブ配信ユニーク視聴者数）



### ⑥プログラム

- ごあいさつ 財務省関東財務局 長野財務事務所
- 第1部：情報提供
  - 「カーボンニュートラルと地域企業の対応」 経済産業省関東経済産業局
  - 「地域における脱炭素実現の取組」 環境省中部地方環境事務所
- パネルディスカッション「脱炭素経営について」  
ファシリテーター：信州大学経法学部 特任教授 中島 恵理 氏  
パネリスト：
  - 八十二銀行
  - サントリープロダクツ株式会社 天然水北アルプス信濃の森工場
  - 株式会社山崎屋木工製作所
  - 株式会社長野エネルギー開発

## ⑦開催案内チラシ

地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

# 信州における **地域脱炭素** の実現に向けた 金融機関・事業者向け セミナー

オンライン開催・参加無料

## 2023年3月14日(火) 14:00 ▶ 16:00

長野県には多くの資源ポテンシャルがあり、この地域での社会変革と合わせた脱炭素社会構築に向けては、地域資源の持続的な活用と合わせた脱炭素化の取組を進めることが重要です。  
当セミナーでは、地域で事業者との接点の多い地域金融機関をはじめ、地域内の資源を活用した事業を展開している事業者を対象とし、具体的な取組事例や情報の共有、意見交換等を行います。

### プログラム

**ご挨拶** 財務省関東財務局 長野財務事務所

**第1部** 情報提供  
「カーボンニュートラルと地域企業の対応」 経済産業省関東経済産業局  
「地域における脱炭素実現の取組」 環境省中部地方環境事務所

**第2部** パネルディスカッション  
「脱炭素経営について」  
ファシリテーター：信州大学経法学部 特任教授 中島 恵理 氏  
パネリスト：八十二銀行  
サントリープロダクツ株式会社 天然水北アルプス信濃の森工場  
株式会社山崎屋木工製作所  
株式会社長野エネルギー開発

Webex/YouTubeライブ配信 申込時にどちらかを選択してください。

● **参加申込フォーム** <https://forms.gle/sE1WF2vGg6gd85m17>   
参加URLまたは視聴URLは、3月10日(金)までにお送りいたします。  
EPO 中部ウェブサイト (<https://www.epo-chubu.jp>) から  検索  
申込できます。

● **メールで参加申込の場合** [info@epo-chubu.jp](mailto:info@epo-chubu.jp)  
① 氏名(ふりがな)、② 連絡先(メールアドレス・電話番号)、  
③ 所属先、④ 参加方法(Webex/YouTubeのどちらか)  
を記載し、件名を「0314 セミナー」として、3月7日(火)  
までに送信してください。

主催：経済産業省関東経済産業局・環境省中部地方環境事務所・財務省関東財務局長野財務事務所・中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)

## (9) 地域循環共生圏に通じる担い手（団体等）の把握

- 地域での地域循環共生圏に通じる担い手（団体等）に対し、地域循環共生圏づくり（PF 事業とその事例）に関する情報提供等を行った。

対象団体	一般社団法人日本環境 NPO ネットワーク（Jens-Net）
実施日・方法	2023 年 2 月 9 日に、Jens-Net 5 名と EPO で情報交換を実施
実施内容	<p>(1) 自己紹介（それぞれの活動紹介）</p> <p>(2) Jens-Net の設立背景、活動内容等の説明</p> <p>(3) EPO 中部の説明</p> <p>(4) 地域循環共生圏（PF 事業）、OECM の概説</p> <p>(5) 情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 活動者ネットワーク、中間支援組織の必要性について <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 活動者同士の情報交換等ができるため、コロナ禍でも益々その役割が重要となった。</li> </ul> </li> <li>■ 活動上の課題について <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 個別の団体同様、コロナ禍を経てネットワーク組織の維持が難しくなっている。活動資金、マンパワー等の不足は否めない。</li> </ul> </li> <li>■ 地域活動に必要とされている支援とは <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 環境、地域づくりは短期的な成果は得られにくいいため、長期的な視点での支援が必要である。</li> <li>▪ 単年度予算で動く行政からの長期的な支援の獲得は難しいため、企業等からの支援が重要となる。</li> <li>▪ CSR や SDGs 貢献等で「何かしたい」と考えている企業も多いため、活動者とそうした企業をマッチングする場があってほしい。</li> </ul> </li> </ul>



### 【EPO 中部／地域循環共生圏の説明資料】

**中部環境パートナーシップオフィス  
(EPO中部) について**

中部環境パートナーシップオフィス（EPO中部） 富田夏子

### 「EPO」とは

「EPO:環境パートナーシップオフィス」は、協働取組を構築・促進する中核的な担い手として、環境省が環境教育等促進法に基づき全国に設置した施設・組織。

「EPO中部」は  
富山県、石川県、福井県、長野県、愛知県、岐阜県、三重県の中部エリアで、SDGsの推進・実践や環境活動に取り組む皆さんをサポートする環境省の施設です。持続可能な地域づくりにEPO中部をご活用ください。

